



NPO 法人・ACT小平

らいふえいど通信 27 号

〒187-0034

2011 年 5 月 20 日発行

小平市学園東町 2-4-16-102

Tel. 042-348-0376

発行責任者 黒澤 桃枝

—2010 年度活動を前向きに評価して

次年度も利用者のニーズに添ったケア提供をするために

日々研鑽につとめ活動するメンバーを増やして

事業の安定につとめる方針を検討していきますー

寒く長かった今冬でした。3 月、年度末を迎え、毎日のケアにつきながら各種更新事務や活動報告をとりまとめ、2011 年度の方針についても理事会で討議し、定例会に提案する作業にとりかかりはじめていました。そして、3 月 11 日東日本大震災。当日らいふえいどでは代表の指揮のもと、サ責、コーディネーターでまず、利用者さんの安否確認にあたりました。幸いに全員無事でほっとしました。計画停電等日常生活やケアにも支障が生じる中、全メンバーで協力し合って当座はきりぬけました。今までに経験したことのない大震災に、ワーカーズとしてできる支援のあり方について各情報を含めて討議し、話し合っています。

今年度は公的サービス拡大を目標にあげ、サービス提供責任者も2人体制で取り組み、各方面に働きかけもしてきました。しかし、ケア依頼に対応できるケア者がいない等でケア実績は 92%の決算になりました。このような中、趣旨に賛同するメンバーが3名増えました。ミニディサービス(火曜サロン)や各地域活動にもらいふえいどとして参加実現できました。

本当に地道な仕事ではありますが、これらを継続しつつ、信頼される事業所として、少しゆとりの笑顔のキャッチボールができる和が広がることを願います。



—2010 年度後半の活動経過—

- 2011 年 1 月 8 日

1 月定例会

議事要旨により確認、報告事項を承認しました。

その後、新年会を花小金井ぶどう家さんにて、担当の小糸さん、石盛さんの企画で多数のメンバーが参加して実施しました。日頃の仕事を離れて、ほろ酔い、満腹に楽しく親交を深めたひとときになり、今年も頑張れそうのほほえみ。



- 2 月定例会は大雪のため中止。
毎月の会計報告、ケア実績等は詳細に報告されています。
- 3 月 15 日
3 月定例会
主に 2011 年度活動方針の提案で討議
(出席者が少なく、重要議案のため、議事録を各メンバーに配布)
- 4 月 14 日
4 月定例会
各報告、確認事項
2011 年度活動方針を討議して最終確認しました。
- 社会事業大学院生の同行訪問受け入れ



メンバーのつぶやき。。。

なかなか全員とお会いできる機会がないので、日頃感じていることをつぶやいていただき、誌上交流ができればありがたいです。

5月の連休も終わり、日々の日常がもどってきました。東北の被災者のことを考えると、この日常がかけがいのない程の幸せなことだと感じる毎日です。私の家のことですが、末っ子が今年高1になったのですが、夫は来年退年となります。59歳になっていたことに改めて驚いています。夫は自分のやりたいことがあるみたいで、仕事は延長しないで、自分を磨くのだと。私は働いて欲しかったのですが、夫の人生ですから。健康で何気ない毎日がずっと続きますように。

(稲見 洋子)

コンビニで単一電池を見てホッとしている私ですが、学校の警備員となって思う事は子供達の忘れ物が多い。先生方の防犯(火)意識が薄い。各校には防犯用具がセットされてますけどネ。天(人)災は忘れた頃にやってくる。備えあれば憂いなしと、うまくいったもんだナァ。

(黒一点)

私達が子供の頃の母達の間には、何かちょっとした困り事の時、あそこのおばちゃんに頼めるかなというアテが個人のつながりの中にあった様に思います。私にできるのはその程度の事ですが、らいふえいどを通して人のつながりの中にいられるおばちゃんになりたいのです。これからも宜しく願いいたします。

(酒井 則子)

メンバーの家族にも被災者が

今回の大震災の被災地出身のメンバーもいて、家族、親戚等の安否確認も大変でした。宮城女川出身の竹野さんの実家は、津波に流されましたが、お父さんほかご家族の皆さんは無事で避難所生活されていることがわかりました。さっそくにらいふえいどの有志でお見舞いカンパで支援しました。ご本人も4月に入り現地入りでき、変り果てた故郷で家族と再会してこれたとお礼と感謝の報告を受けました。

竹野さんの妹さんからのお便り

拝啓 この度はお心づくしのお見舞いの品をいただきまして本当にありがとうございました。地震直後逃げる事で精一杯で着の身着のまま高台の小学校へと避難しました。子の安否を確認するや否や、大津波が町を襲い一瞬にして町は壊滅状態となりました。高台より津波を見ましたが、黒い波とすさまじい音、流される家、波にのみこまれる人、恐ろしいとしか言いようがありません。非難所ではダンボールを床に敷き体育館のカーテンを毛布がわりにして暖をとり、これからの事も考えられないような状況でしたが知らない方とも励まし合い不安な時間を過ごしておりました。ラジオからも女川の状況はいつさい報じられず、孤立した中においても大丈夫、大丈夫と声をかけ合いながら支え合いました。つみれが一ヶだけ入った温かい汁物を頂いた時は心の底から元気が出たのを今でも忘れません。あれから一ヶ月が経ち避難所から親戚宅へ二次非難する人、仮設住宅を待つ人いろいろな意味で決断しなければならない現状です。

私は子供の事を考え、仙台に拠点を置く事としました。

女川での仕事もなくなり家も全壊した為、慣れ親しんだ町を離れるのはとても悲しい事であります。子供の転校など考えると胸が苦しくなりますが、生活を仕切りなおして、日々生活を送る所存です。

今年中三になる娘の上靴、中一になる娘の制服と上靴を皆様のお見舞いの中らつかわせて頂きました。

乱筆乱文となりましたが、お許し下さい。

心よりお礼の言葉とさせていただきます。

平成 23 年 4 月 11 日

敬具

編集後記

コナラやもみじの緑が風に揺れる5月、去り行く季節を惜しむ時期ですが、その春は忘れてたくて、忘れがたい3月と4月。暴れた自然の後始末に私たちの万策が試されましようか。メンバーの協力をいただき、らいふえいど通信今年度分をお届けできました。中々計画通りには活動実現できませんが、初心忘れずの仲間の絆は引き継がれていることを確認できた一年間でした。ありがとうございました。

担当者一同